

新編水滸畫傳

三編
九

21
875
29



今夜新編水滸傳

美 義 不 為 空 林 示 不

西 天 中 橋 水 路

西 甲 殺 友

萬 歲 大 日 得 意 近 之 原 喜 娘 与 滸

生 之 沙 法 亦 示
美 伊 由 行 木

新編水滸傳卷之貳拾九

東武 高井蘭山翁

明治三十九年
十月 講編

○ 或行者醉て孔亮と

或行者道童

在女子出来れ我折て女の殺さ。只汝小彼先生が亦歴て関ん彼女是
と寄て吐く走り出初ち地上小倒れて相伏候。或行者これと見て汝匣
しく相と休よ我先汝小官ん。このいなる所おいて。又彼先生の汝が為る何者
も。汝實にこれと若よ彼女汝と流して云るハ奴ハこれ這嶺の下小居候者
張太公と云者が女之此座ハ奴が先祖の墓と安んじらる座之彼出んはハ
何玉のまゝ知る縁も向に我が家小来て一宿し。その夜我が父母小對
て若陰陽を習ひ。能風水と識らると傳りらる由也我が父母不喜小して

新編水滸傳卷之貳拾九

彼小墓地の風を親せりめ若くは占せんと欲し數日お小返しては墓の風水
 と親せ又數日返るぬに彼一日奴と見て再三慕ひ二三月奴が家に還海
 て回らば母父母是れ怒りし彼却て大小毒の毒に父母と哥々嫂小く殺
 奴と引ては庵に居住せり我變して彼が心小後すましく思ひしとも彼えに
 憤りて奴を殺さば父母の仇と報ざるまゝと悲し先世に彼に従ひぬと思
 機と消えたいんせして仇と報じ恨と言ふとの事なり彼道堂も亦他より
 ありし志は炭乃ち蜈蚣王乃人とりぬ武行志又問て云汝は親親
 號とも自ら稱して飛天蜈蚣王乃人とりぬ武行志又問て云汝は親親
 有ておにかの先せと富し仇と報せんと夢をありや彼女答ていらく我が親親村
 中に於教家ありと云て於て城に農夫あり第一の彼先せは堪ひて犯して争ふと
 能くは第一遠く州裡小池にて夜府小松ふと能く流る流るに脈と嚼の

武行志云彼先せ庵中に金銀の貯ありや女云彼向に我家の材室と
 棄ひれて今已に一二百の美金あり武行志云金子ありや女云くは拾ふ
 我今火を放ては庵を焼拂ふべし彼女がいく和尚ハ酒肉とも食しや
 武行志云若酒肉めは述に我小身よ我是と食せん彼女がいく已にかくの
 ごとくは實しく庵中に入り武行志がいく庵中に野人の門を暗に我と害せん
 と罵るはめすや彼女がいく和尚已にかの先せがごとく死方夫不為の勇士と
 殺しおひぬ豪傑なれど假令庵中に千万の人伏し一も何ぞ恐れぬらん
 庵中へ只一個の人をなく必ず疑ひなく入るるとして辱せられ武行志別
 彼女小後す庵中に入りぬに彼女於て酒食と具て懇數小歇待ぬ武行志大
 盜と乞ねて飽飲し酒已に尽れぬ武行志已に火を放て庵を焼拂ふは内
 女一包の金子と武行志に献じて謝しぬ武行志辭していらく我汝が金と

交るる小わの娘は我が心の費さん。娘が懐中細網。私の使用に依り且速
 にびとを去る彼女大に恨んで悔謝し遂に自ら炭を下て叩り。武行志は彼
 友人の屍首を火中不投して是を焼棄す。夜月の明るる小糸下。夜を
 下り。おちの志州を志してを。約莫れを往と十餘日。若干の州郡村々を
 行に於て武行志が形を写して賞錢とるに路に不掛あり。おち緊しく尋ひ
 覓ると。武行志今の祈發を帶て盜と變れば。敢て一人も殺る者なく。時
 多十一月の夜。小移り。寒烈しく。掛るる。武行志者海す。多く酒肉を
 取て食し。られた。文に意を防不足。日武行志一の意を上つて。前向を
 行に大ひなる山。おちの九霄に聳へ。十分に險阻あり。武行志已に志行
 下り。終に二里許り馳る。忽に一軒の酒家あり。門前。山溪あり。屋の
 うしろ。船を顛石。乱山雲と接へ。峰嶽。武行志選ち。酒店。不入り。

先我に二升の酒と賣手へ。よ肉の。味。酒の。白。酒。之。肉。の
 賣。手。は。武。行。志。者。が。白。酒。を。却。て。味。ひ。美。う。ん。小。あ。く。温。で。拿
 来れ。自。己。時。先。二。升。の。酒。と。昏。で。これ。と。温。め。乃。ち。大。碗。小。礫。で。武。行。志。小。手。へ。又
 一。碟。の。熟。菜。と。具。へ。て。肴。と。以。武。行。志。時。と。移。る。二。升。の。酒。と。酌。乾。再。ひ。又。二。升
 の。酒。と。亦。ぬ。れ。い。き。き。二。升。の。酒。と。大。碗。に。斟。ぐ。出。し。乃。知。に。武。行。志。只。願。これ。と
 飲。ぬ。又。向。に。思。ひ。こ。り。時。も。又。六。分。の。酒。と。吃。し。乃。今。又。は。二。升。の。酒。と。飲。且
 窓。風。に。吹。れ。一。礫。大。に。登。り。再。三。呼。ぶ。云。々。乃。は。實。に。肴。と。賣。手。一。と。も
 百。六。只。好。汝。ら。か。自家。小。用。ん。肉。と。わ。く。我。小。ち。手。へ。我。手。價。と。僕。と
 べ。と。お。笑。て。我。し。ま。嘗。て。う。る。出。家。と。見。い。い。ん。ど。酒。肉。と。の。一。向。用。ん。と
 飲。や。乃。又。自家。に。用。る。肉。の。老。早。出。して。和。尚。に。与。へ。り。れ。只。恨。く。は
 半。点。も。い。れ。る。一。和。尚。再。三。物。好。し。ぬ。ん。速。に。盃。と。收。め。飲。過。去。武。行。志。が

云我價と僕せして汝が酒食を求るにめは汝何ぞかく我とてこといふ汝
 肉をよと云も又侍とて正しく肉を以て我小賣れとて正に言と争ふて居り
 如に門外より一人の大漢子二口堂の人を引て店內小馳入りては武次を暗小
 け人とするに取小紅巾を載き身小皂衣と着し面丸く耳大く唇潤くは
 方より身の長ハ七尺竹をうらうら年の比二十に及ぶと見えお親堂くくして
 威風凛々として人己に店の肉小入られはるは面に笑と含んでお迎ふ彼大漢子
 が云我方くと奔走してまご疲れする小氣おの酒と肴とを奪と奪られそれ
 杖く一盃と酌んとて遂に武次と席と對して坐しられは彼はひきりさるこ
 じ個の人へすて傍に列座するは時を一掃の美酒と携へ出てこれと自らを替く
 酒の香忽ち風小旋武次が鼻と熱めて過りり。武次はさび者と観く大い小
 落し心中に且六七かまを思ふるに又はつの大盤に雞と肉とをへて奪あり。



武松 孔明

武者 酔て
投水 湊



乃彼大漢子が前にこれとを彼昏出する酒と盪て来んとて已に厨の辺に入り
 りれ我の衣の已が前の一壺の白酒と一盤の饗菓とのをりて流落不興なる顔見
 て大いに怒り遂に拳と握て煮て尽くお碑と恰も奔雷の如く大者怒に吼
 て去るに汝何ぞ客と欺くことと申す此の時も我亦東海鏡と云へば一て
 く汝が酒と飲にわは汝小人我と何等の者と思ふををいして見て吐くを
 去和尚何ゆゑかを有りやと且宜く静く更酒と和らぬえとあるは怒り息を
 これと命も更衣の衣を脱ぎて怒り眼と睜みて大いに罵て云は汝小人いんぞ
 虚云と云ふや汝は既に白酒のそをそ看されと云ふは今又更酒佳看と云て
 彼客に賣とて我小售さるいん我も何と汝に價を償ふに汝客を擇んで
 痛ふと何と一列をさるやと云和尙誤て我と恨と申す彼酒と看と云ふ我
 亦小の亦小わは是乃かの太郎自ら撰へぬ酒看も我が店と傳りて

酒を砂の如く我肯て客を撰一貫とるんや。必ずこれと怒りありと云ふれ。或は
 心中小只顧彼酒肴を慕はれむと云ふ事と身も喰入れず。蓋大いに怒る。汝
 焉どうする。套活して我を欺くこと。汝んや。早く美酒佳肴を我亦も携来
 れ。まがいに我を汝の如く出家せんとす。汝何由再三非乃と云ふ。或は或は云。汝
 老爺 在家の人敬て 向て非乃と云い。是の言礼を。まがに汝を先出家の欺と
 る。是乃に。いんぞ在家の洞を用ひ自ら老爺と稱す。老爺は出家の稱する言に。汝
 汝は是實に出家する。汝在家もわ。不三不戒の徒。或は或は云。汝を以て
 大小怒り。勿ち拳を捏てまが面を。わらわ。主勇力小おれて。眼を眩。或は
 彼武の志が。対面小坐。一。大漢子。肩に懸り。倒れ。如に。吾。疾。志。り。じく
 起ると。叶に。大漢子。は。光。系。と。看。く。大。い。小。怒。り。は。く。く。躍。り。起。武。の。志。を。罵。て
 云。汝。絨。毼。陀。何。ぞ。ま。ま。云。礼。と。云。且。あ。り。に。吾。を。奉。て。ま。ま。お。し。て。豈。是。と
 出家といふ。汝必ず信心を起して。され。或は或は云。我を欺かんと何の
 事。汝小干。う。ん。那。大。漢。子。益。怒。て。云。我。好。ま。し。め。て。汝。と。汝。に。汝。却。て。欺。く。は
 いん。必ず。も。我。毒。り。と。惹。出。して。後。悔。す。と。云。れ。或は或は云。虎の怒を
 わり。勿ち。ま。り。出。て。大。い。小。呼。く。云。汝。何。奴。を。れ。爾。事。に。干。す。自。獨。い。せ。振
 く。や。彼。大。漢。子。大。小。喚。て。云。汝。絨。毼。陀。我。と。拳。を。交。へ。ん。と。欲。や。汝。力。を。わ。ん。
 我。肯。て。汝。が。對。子。小。う。ん。と。て。已。に。門。外。小。出。れ。む。或は或は云。門より
 走り出。我。豈。汝。を。怕。ん。や。と。拳。を。の。げ。お。て。く。彼。大。漢。子。或は或は云。猛。快。と。ん。て。拳
 へ。お。迎。む。乃。ち。拳。を。硬。めて。十。步。許。引。近。き。夜。櫛。を。額。で。拍。へ。ん。如。に。或は或は
 電の如く。逃。入。り。遂。に。右。の。子。を。伸。して。彼。大。漢。子。が。肩。骨。を。碎。り。身。を。握。り。ん。で
 彼。大。漢。子。力。を。用。ひ。て。或は或は云。湯。割。え。ん。と。云。う。ん。と。云。く。或は或は云。勇。力。に
 敵。す。と。云。ん。や。衝。く。力。衰。へ。て。衝。くと。強。さ。り。な。れ。或は或は云。或は或は云。彼。男。を。捉。へ。せ

出家といふ。汝必ず信心を起して。され。或は或は云。我を欺かんと何の
 事。汝小干。う。ん。那。大。漢。子。益。怒。て。云。我。好。ま。し。め。て。汝。と。汝。に。汝。却。て。欺。く。は
 いん。必ず。も。我。毒。り。と。惹。出。して。後。悔。す。と。云。れ。或は或は云。虎の怒を
 わり。勿ち。ま。り。出。て。大。い。小。呼。く。云。汝。何。奴。を。れ。爾。事。に。干。す。自。獨。い。せ。振
 く。や。彼。大。漢。子。大。小。喚。て。云。汝。絨。毼。陀。我。と。拳。を。交。へ。ん。と。欲。や。汝。力。を。わ。ん。
 我。肯。て。汝。が。對。子。小。う。ん。と。て。已。に。門。外。小。出。れ。む。或は或は云。門より
 走り出。我。豈。汝。を。怕。ん。や。と。拳。を。の。げ。お。て。く。彼。大。漢。子。或は或は云。猛。快。と。ん。て。拳
 へ。お。迎。む。乃。ち。拳。を。硬。めて。十。步。許。引。近。き。夜。櫛。を。額。で。拍。へ。ん。如。に。或は或は
 電の如く。逃。入。り。遂。に。右。の。子。を。伸。して。彼。大。漢。子。が。肩。骨。を。碎。り。身。を。握。り。ん。で
 彼。大。漢。子。力。を。用。ひ。て。或は或は云。湯。割。え。ん。と。云。う。ん。と。云。く。或は或は云。勇。力。に
 敵。す。と。云。ん。や。衝。く。力。衰。へ。て。衝。くと。強。さ。り。な。れ。或は或は云。或は或は云。彼。男。を。捉。へ。せ

唯一投し地上に投るる。恰も孩子小戯るごとく。彼陸ひあり。こゝ個の人。
 於て以射と見て大いに恐れ教る一人も助んとする者あり。或は去彼大漢
 子と踏付て鉄石のどき巻を舉。約莫二三十巻。連ふ歩あり。遂小酒店の方
 の溪の内に投入し。彼三巻の人これを見て大いに驚き。各急に溪の内に鉄
 かの大漢子を投げ上。並小南と尋んで叩り。酒店の主人は時ぞ。一人を地つと
 這神と見せしむ。肝と消し。此うく。後堂に匍匐して躲れ。或は去彼獨
 自ら喰くと大い小嘆ひ。或は酒店に入て彼酒肴と擲ふ。實既。暫くの間に及
 んで吃し。早り便店と跳出。溪小沿て走り。小風吹れ。忽ち霹靂く大い喬
 たり。既や。口只里評絶る。如く。傍の牆の内より一丈の莫大走り出。只顧或は去か
 後。に纏ひ。或は吠し。或は去り。大い小怒り。暗に。かの戒刀と拵て。只一砍。或と
 追近し。に彼大漢辺と繞て。尚射り。に吠る。如く。或は去り。遂に追きて。唯一刀

小と躍り。能て斬ぬ。に彼大これと見て。急に傍に跳去。られた。或は去り。或は去り。
 と飲ま。或は利ひ。と。或は猛。或は去り。或は去り。或は去り。或は去り。或は去り。
 り。或は時。或は天。或は風。或は水。或は已。或は涸。或は僅。或は二。或は尺。或はの。或は水。或は小。或はの。或はさ。或はり。或はし。或はう。或はも。或は水。或は中。或は深。或は更。
 或はう。或はて。或は武。或は刃。或は去。或は忽。或は渾。或は身。或は去。或は急。或は上。或はと。或は絶。或はす。或は又。或は良。或は久。或はく。或は水。或は面。或は小。或はて。
 侵し。或は岸。或はに。或はせ。或はみ。或は机。或は上。或はり。或は如。或は彼。或は戒。或は刀。或は水。或は底。或はに。或は落。或はり。或はれ。或はが。或は或。或は刃。或は去。或は壯。
 か。或はく。或は頭。或はを。或は低。或はて。或は水。或は底。或はを。或は重。或はこ。或は彼。或は戒。或は刀。或はす。或はい。或はん。或はう。或はれ。或はた。或は不。或は刻。或はち。或は酒。或は小。或はへ。或はひ。或は二。或はの。或は水。或は小。或はを。或は全。或は身。或はを。或はて。或は麻。或はれ。或はら。或はが。或はう。或はよ。或はめ。或は足。或はの。或はさ。或はも。或はう。或はく。或はら。或はび。或はむ。或はせ。
 翻して。或は倒。或はに。或は落。或は入。或はり。或は拉。或は如。或は傍。或はの。或はの。或は辺。或はより。或は一。或は夥。或はの人。或はを。或はせ。或はり。或は高。或は先。或は小。或は一人。或の。或は漢。或は子。或はを。或はら。或はら。或はを。或は裝。或は束。或は拵。或はめて。或は嚴。或はう。或はて。或はり。或はは。或は一。或は條。或はの。或は拵。或はを。或は拿。或はぬ。或はそ。或はら。或の。或は。或はこ。或は生。或はは。或はま。或はげ。或は人。或はと。或はま。或はて。或はる。或はた。或は衣。或はに。或は従。或はひ。或は各。或はも。或はら。或は拵。或はを。或は拵。或はげて。或はら。或はち。或はに。
 と。或は小。或はぬ。或はり。或は肉。或は一人。或はの。或は僕。或はを。或は拵。或はう。或はて。或は云。或はら。或はは。或は彼。或は戒。或は刃。或は者。或はを。或はら。或はや。或はら。或は

ふれどおせしものるれ。扱今比知小馳ありぬるは大とここの先に武行志ふらる
 れる大とここの先先小赤れる彼大とここのつに人をもとに作し。壺に酒を
 馳て武行志と奪ひんせよ。武行志如かると。武行志。後と暮を返
 うけ。白くく比知。即ちて。為らぬ。忽ち舎兄小遇られ。舎兄が云。向に汝と赤
 る。乃ち。漢の因小。立既陀をん。と。乃ち指さして。せられ。彼おれも
 漢子。これと。云。乃ち。のづと。こ。こ。仇人之。速に。これと。捕ふべし。と。漢の
 人数。一。而に。集めて。溪辺。小。馳行し。知小。舎兄の。大漢子が。云。先彼と。私宅小
 引。回て。痛く。貧ん。小。汝。あ。く。ま。と。下。して。活。捉。お。せ。よ。と。下。知。し。られ。と。二。四。十
 人の。漢子。を。一。齊。小。吐。と。溪の。因。小。跳。入。て。武行志。と。捉。へ。る。小。武行志。の。酒。小
 碎。る。の。こ。る。は。溪。水。に。身。と。浸。して。凍。し。ふ。か。し。も。動。さ。働。く。と。能。は。遂
 に。擒。と。なり。小。り。漢の。漢子。を。武行志。と。捉。捕。横。に。拖。倒。小。拽。て。岸。の。上。に

登り。尚。中央。に。丸。圍。んで。一。間。の。大。家。の。下。に。引。回。り。ぬ。武行志。の。前。後。不。受。の
 体。あり。し。が。も。微。一。醉。眼。と。寫。て。比。知。と。云。は。ぬ。武行志。の。方。に。於。て。多。量。粉。塵。あり。
 周。廻。の。そ。く。垂。柳。喬。松。お。交。り。密。く。に。茂。り。ぬ。漢の。漢子。を。遂。に。武行志。と。拖
 立。肉。小。入。於。て。衣。裳。と。剥。て。戒。刀。と。奪。ひ。已。小。さ。る。小。小。小。解。て。大。柳。樹。の
 葉。に。纏。り。着。着。の。鞭。と。以。て。は。十。鞭。赤。ぬ。肉。より。一。人。の。漢子。走。り。お。て。同
 乃。ハ。汝。兄。身。何。と。と。捕。へ。て。形。策。や。兄。身。を。人。これ。と。夢。忙。し。く。懸。懸。に。着。て
 云。乃。ハ。兄。身。が。これ。と。夢。の。今。日。弟。三。人。の。家。僕。と。從。乃。ち。右。面。の。酒。壺。小。立
 て。酒。と。酌。んと。せ。知。に。這。織。乃。若。酒。小。碎。て。事。と。鬧。し。身。と。散。く。小。赤。割。一。溪
 の。内。に。投。入。て。六。小。身。并。と。傷。し。ぬ。ぬ。み。て。見。身。人。數。と。僅。し。尋。ね。行。し。如。に
 這。織。乃。自。ら。溪。の。内。に。溜。り。ぬ。水。に。凍。て。な。る。と。遂。に。捉。て。拖。回。り。ぬ。這。織
 と。う。く。ら。に。必。定。ま。の。出。家。小。ぬ。は。已。に。面。上。も。金。印。の。刺。わ。る。の。故。に。既。死。と

有り。髪を垂てけ金平と遮り。義す。身を。以。滅定めて罪と。逃。逃。出。囚。後。ま。の。色。し。宜。く。今。携。同。して。身。辱。せ。や。在。逃。に。友。府。に。傳。へ。て。今。身。の。大。漢。子。を。云。遠。絨。我。身。解。と。亦。破。て。劫。若。と。又。一。身。と。恨。む。大。ひ。の。あ。ん。と。友。府。小。送。て。人。の。子。小。殺。ま。せ。て。我。恨。ん。を。令。く。奪。ぐ。と。わ。ん。只。ひ。知。り。て。二。百。鞭。で。与。へ。て。後。又。亦。殺。し。一。把。の。火。と。用。て。屍。を。燒。持。た。我。方。に。他。は。恨。と。絶。す。べ。し。と。未。だ。も。羅。す。し。て。又。鞭。撻。を。已。に。亦。ん。と。り。知。り。又。被。肉。より。奪。る。漢。子。を。云。汝。先。亦。く。と。休。よ。我。汝。に。被。と。一。見。見。と。迎。く。と。向。ひ。布。る。小。武。行。も。酒。の。碎。漸。く。硬。て。心。中。小。び。と。と。睨。し。只。眼。と。穿。ち。も。怕。り。け。し。さ。あ。り。り。彼。漢。子。已。不。武。行。も。亦。不。面。て。先。肩。の。上。の。指。瘡。と。是。云。乃。い。は。指。瘡。頃。日。亦。れ。る。痕。く。と。又。子。と。て。武。行。も。亦。髪。と。掲。げ。替。り。面。と。見。く。忽。ち。大。に。驚。き。て。云。乃。い。這。か。れ。我。義。才。ま。て。へ。り。と。武。行。も。亦。云。と。皆。て。眼。と。穿。ち。肉。と。く。被。漢。子。と。着。て。云。乃。い。初。

宣。は。微。小。我。の。義。兄。と。す。ま。す。よ。被。漢。子。又。忙。し。く。兄。才。の。志。に。向。て。云。乃。い。這。か。れ。我。の。義。才。なる。疾。く。我。が。お。に。これ。と。助。ん。や。兄。才。の。志。大。に。驚。き。て。云。這。か。れ。い。ん。ぞ。却。て。老。兄。の。義。才。なる。那。漢。子。を。我。才。に。汝。亦。に。流。り。ぬ。彼。系。陽。岳。と。て。虎。と。殺。せ。武。松。と。云。ハ。刺。け。り。と。是。只。あ。る。い。う。る。ゆ。ゑ。と。初。髪。と。亦。く。取。陀。の。形。と。ハ。わ。り。る。と。又。兄。才。の。志。に。向。て。慌。て。忙。と。解。せ。衣服。と。着。き。乃。是。て。第。堂。の。内。に。入。り。乃。武。行。も。急。に。被。漢。子。と。拵。せ。ん。と。せ。一。処。小。被。漢。子。と。拵。け。起。し。て。云。乃。い。賢。才。と。云。定。て。酒。の。碎。い。ま。と。碑。は。し。ま。先。官。一。く。安。坐。し。て。談。話。せ。何。も。心。し。も。物。と。亦。不。及。ん。や。武。行。も。益。大。不。悦。び。座。已。不。及。ん。れ。酒。の。碎。も。今。い。ま。令。碑。亦。り。扱。被。武。行。も。と。助。け。さ。男。に。別。人。お。わ。り。乃。是。郵。城。縣。の。人。及。時。兩。宋。公。明。之。武。行。も。先。官。一。く。衣。兄。ハ。向。に。柴。丈。友。人。の。敏。に。居。る。ひ。り。何。ゆ。ゑ。又。は。知。る。あ。り。ひ。り。を。疑。く。ハ。是。後。

中の集まうそのめさるや宋公明が我れと宋大友人が館をて別れては後宋
 をかぬに半年許り住しなる如く肉の老父とて且番公然り乃ち弟定法と
 稱ひかれ不問して老父と問ひしめ後鄆城縣の消息とて安らるに友府の
 彼朱全雷接友於改が働かよめて軍しくお流る方々に文書と下りて我捉へんと
 せしとも遂に測りて急りしと之の由に我今願ふ心と安んず扱ひ取の至孔太公
 時、鄆城縣小人と馳我とて問ひしと宋公明とて我は宋進が館を住し乃ち世
 向小汝と争ひ圖る人の孔太公の三男とて彼人老に經來るに依て動不動人と
 争ひと惹出はと多し乃ちま名と擲火星孔亮と号し又彼一人の大漢子ハ孔
 太公の嫡男毛政星孔明と云人之は兄弟餘皆と好んく學ぶ由我我畧是と
 指南せり我は知れ在と已に半年修りて我今又弟に清風寨に強んと欲は我

宋を館に在り時流人の傳へ云らふと彼らに汝向に京陽邑の上にて猛虎
 と殺し乃陽谷縣に當て於改の職とをせとそ後又人の風流に死門慶と
 中んと殺し入牢せりとそつ沙汰なるが。あつ何れの如に流されしとや。又
 いろあつて於改院の形不遂とて今けれとそ我は去るて宋簡に策
 大友人の館ふて老兄不別れてより後並ちに京陽邑の上とて大虎と殺し
 されに村中の志舉て是と悦素と吹嘘して陽谷縣に送りぬる如に知
 縣とて巻て於改の職と授けぬそ後河嫂死門慶と私情と毎ト兄
 或太師と毒殺せり由そ系ひ友人の男女と殺し兄の仇と報し知縣不別と云
 されに本府不送て改めと戒めし如に陳府尹討に素と憐れ死罪と免し
 流罪と改めし二十杖策つて孟州に流され幸已に孟州の路十字坡と云知
 るて張青孫二娘と云夫婦の老小遇て八節の交りとは兄弟の愛と結ひそ後

孟州小孟老官管男施恩と云者と。まゝ兄弟の約を折て比施恩が
 仇人蔣門神と云ふわらふと。弟施恩が為小れと歩倒し知と逃拂ひ乃れを
 蔣門神は根と名んと欲して張登練強劫監ふと頼んと。弟と害せんを
 乃る由を素亮に強劫監が樓上へ忍び入け三人の志と斬殺し。弟又強劫監が
 一家中の男女尽く斬殺し。弟は計と避て強妻が家小入商儀し乃る知れ。弟
 妻孫二娘が計小依てかくのどく約束とめて人目と視さ。弟は比知小郎
 ぬ。又蜈蚣山於と云ふ所て王道人と云ふを戒刀の試小れと殺し。弟とて強劫の
 事詳小強りし知れ。孔明孔亮これとめて大小孩さ忽ち身と翻して物と返
 乃れを武松壯しく礼と還して云先うは。弟と不礼とせぬ。弟はこれと逃
 走孔明孔亮と云。我ら兄弟眼を以ども。弟の英雄と識す。弟威風と冒
 ぬ。弟は罪を免し。弟武松と云。弟下兄弟既小強我と憐し。弟は。

宋江夜
 係鉤索



宋江 遭 賊難



彼は牒戒刀并に衣裳ホレと失ひのりたる孔明が豪傑必うられ
 憂ふまじ、我自、初て收拾められ、一色も失ふてわじ、或はこれとて
 源く感謝、以て時宋江に於て孔太公と侍て、同く對面さめ、互に孔早て府
 已に定りし、孔太公、人小令、一酒宴と供け、一め、或はこれとて、款待、乃ち
 疾、宋江、或はこれと、一、初に、歌、一年、修、の、別、離、の、愁、を、強、く、て、共、に、す、心、を、慰
 め、乃ち

○錦毛虎義とめて宋江を釋せ

翌日、或はこれと、宋江、と、同く、起、き、共、に、中、堂、ホ、り、孔、明、兄、弟、と、存、を、連、ね、食
 成、吃、一、果、談、良、久、く、し、て、又、近、年、の、天、下、事、り、孔、太、公、又、羊、を、殺、し、猪、を
 宰、し、め、大、い、に、酒、宴、を、設、け、飲、酌、を、催、し、乃ち、是、日、村、中、の、親、戚、ホ、も、來、て、豪
 傑、の、交、り、と、繁、し、乃ち、宋、江、は、充、系、と、見、て、心、中、翻、る、を、恨、び、ぬ、既、う、て、酒、宴、罷、り

然ハ定江武乃志小同て云汝ハ今何れの如小行て身命と欲せんと欲ふ如武乃志
 云。此乃已に長兄小後りぬ。彼菜園子張青一封の書簡と候。乃ち素と薦て
 青州の二竜山宝珠寺魯智深の山陣に送り申張青も又教業と止て後
 二竜山小後とと約しぬ。宋江が云汝若二竜山小往らむ身命と云るに足べ
 乃れ在。我乃知に及んや。前日九つより書簡と寄て云るは。風寨の如寨
 小亭廣花榮我が園邊橋と候。とて候て。毎度書簡と寄。再三再は我
 と候て。寨裡に留せしめん。と欲す。間寫しく先花榮が信小後し。彼が誘ふ
 も謝し申せと。老友の方より信細に申候。汝先花榮が信小後し。遠くされ。頃
 日既に發見せんと思ひつれども。只天色陰てぬ。及ん。控板の由。未だと。榮往せり
 一必定近日の因孔太公父子と稱し。港風寨小懸。と云。汝も先我小隨て。同往
 せん。或は長兄若肯て来と。港風寨小懸。往らむ。未だ。乃ち。莫太の福
 強れ。我の愛に一つの手。有て。身命に候。いと。此日も。後りぬ。と。素は。い。び。犯
 する罪ハ心に九族と亡き。に當り。り。長兄小後。ひ。彼。不。小。懸。と。第一。事。漏。て。友
 同に。活。捉。る。と。わ。ん。尖。必ず。花。榮。を。兄。乃。ふ。べ。と。長。兄。の。素。と。同。死。日。生。の。約。と
 誓。ひ。の。ひ。と。と。る。れ。假。令。素。が。為。災。と。毒。り。申。す。十。分。恨。ま。申。す。も。有。は。し。れ。せ。

花榮ハ又格別の交りなれ。乃ち。彼。に。綱。と。懸。り。し。び。と。わ。ん。素。何。と。以。て。これ。小
 當。ん。ん。び。由。名。に。び。度。の。只。宜。し。く。意。と。決。して。二。竜。山。小。上。り。彼。に。隠。れ。て。綱。と。懸
 籠。と。懸。り。乃。天。憐。と。當。り。て。朝廷。の。由。赦。免。と。も。懸。り。乃。再。び。長。兄。と。訪。ふ。と。云
 合。致。す。と。懸。く。ハ。長。兄。明。く。不。是。と。遠。く。申。す。宋。江。に。言。と。候。て。云。乃。ハ。汝。若。果。て
 か。の。と。く。朝廷。に。傳。報。す。の。心。わ。ん。天。必ず。汝。と。祐。け。申。す。以上。我。若。り。に
 汝。と。待。めて。同。往。せん。と。大。小。不可。と。互。に。上。の。所。免。と。懸。て。身。命。と。懸。る。ん。再
 云。の。初。何。と。か。う。ん。や。強。れ。を。汝。若。何。幾。日。に。知。に。滞。留。して。我。と。候。に。奈。は。せ。と。

友人孔太公が銀小二十條日送る。宋江も喜ばし。武行者も共に孔太公
 父子に別れを辞し。孔太公父子再三別れに留りて。又は日延引せしが。宋江は父で衆
 賢と。再び告て已に旅籠をも調へ。孔太公父子昔に留りて旅籠に送る。酒
 宴を設て。日晩れ。身と酒を賜て。別れを惜み。互に傷として。涙く。心中
 感激し。翌日孔太公父子一套衣指さ。びに一疋の布襦袢と。武行者も送る。又彼
 武行者も包袱蓋及び度牒戒刀のものを還し。旅籠を調へ。又又十疋の銀
 と。宋江も送る。儀の儀と表し。られ。宋江も辭し。これと交り。孔太公父子再
 三をめて。自ら宋江に包袱の内に入し。宋江も辭し。これと交り。孔太公父子再
 うして宋江も武行者も旅籠を調へ。孔太公父子と辭し。門外小
 出る。如小孔明亮源く別れを惜み。晝迄二十里送り。遂に一別に及びぬ。
 夫より宋江も武行者も去り。後と。翌日七十里と馳り。旅籠に歇む。翌日

又子天に歩立方小八十里許り。行て瑞龍峯と云ふ所にあり。なるに。此処に三節
 の海ありし。宋江先々人小回て云。二竜山と清風寨。何れの路ぞ。行そや。
 人答て曰。二竜山と清風寨。又。晝迄不かれ。行先二竜山は西の海を。東で
 行。又。清風寨。又。東の海を。東で。行。又。宋江は。是。等。て。乃。ち。武。行。者。小。對
 して云。乃。の。賢。弟。我。汝。と。今。日。別。る。へ。さ。さ。宣。し。く。此。処。に。放。す。三。盃。と。酌。ん。と。飲
 る。酒。店。に。入。て。盃。と。酒。互。に。お。勅。め。酒。已。に。數。遍。巡。り。知。し。武。行。者。も。云。宋。江
 兄と送て。我も。及。せ。行。可。う。ん。や。宋。江。も。云。何。ぞ。送。る。や。及。ん。古。へ。の。海。も
 君と送る。千里。送。り。須。く。一。別。す。と。云。と。わ。り。汝。只。顧。二。竜。山。と。清。風。を。送。る。
 万里の海。事。も。よく。別。れ。し。て。魯。智。深。も。在。此。難。と。避。け。災。を。脱。れ。自。ら
 身。を。合。く。せ。ん。て。馬。を。賣。ん。向。後。必。ず。酒。醉。を。改。め。て。只。今。朝。廷。より。被。殺。せ。わ。ん
 と。孫。權。よ。汝。又。魯。智。深。楊。志。も。も。官。々。孫。權。も。朝。廷。に。降。る。べ。し。孫。權。

必也爵祿を交て妻子を安穩ありしめ。尚清名と善天の下に據りて卷せ
 未代小遺すとのん我勢不肖よりと父を素より忠心と懐くこと切之れを
 未とす歩も進むと能はしむ。かくのごとく狼唄の汝の来可夫不肖の豪
 傑をれ。決然大友とありてめらん汝も我は云とて泣て公孫龍。地日の糸
 云と云長し武の志は云とて泣て天ひに感激し。遂に友人酒店を出て海
 舟り武の志を云えに海と酒と只多しと別れ小悲び。一向嘆息小遍り。乃
 宋江が云汝唯宜し。我を云と忘れずして。酒辭と改め自ら憐れ災と免れ
 よ武の志を云長兄り。清風寨小越さるひ必をきく舟と保養し
 自來肯て長兄の訓をよりやえんと。遂に別れ二竜山へ馳行り。乃
 宋江に武の志を云小別れ。並に清風寨と尋んで宋の務よりを遂に已に數日
 馳りぬに。亦希面に河の急山あり別れ。是と清風山と号し宋江は山を

方に勢ひ險く樹木稠密小して。幸風系凡らるるに。宋江の中これせ
 収ひ再三に顧みり乃に云えに。昨日小落て天長までに晚し。うむ。
 宋江の中大に談さる小猿者歌家と求んと歎し。世彼と看繞り乃れを。
 只一軒の破放屋もろりり。宋江雲に悲ひ乃に。夏夏の天氣る。林の肉
 小よりも歌むべられ。今も是仲冬の天氣る。風寒もど密し。いんぞよく。
 野宿と云えや。若又虎豹ホの獸守とあり。遂に一命と害せし。あつと
 於希面に馳て。人家と求人。まると。東の小孫と尋り。是小信せて。李逵約莫
 一時ろり馳て。公孫龍文に傷も凡か。さぞ一味に走り乃れ。如に如ち地上に
 索わると。瀑で跌き倒れ。凡を。細吟齋し。寫ひて。たそより。十に又人の小織
 とも。叫び喊んで。走り。乃れ。宋江と押へ。子小に。綁め。子速火把。小火
 と。並。垂。小山。成。る。んで。上り。し。宋江。大。小。膽。を。消。果。れ。る。許。二。小。織。も。

遂に宋江を引て山崎小島に於て宋江の火光の下に在ては下と云るに於て皆
 本柵破りて陣を壊す小使に中央より一つの茶廳ありて廳の上より
 の椅子を投げけり。後の方より百十餘間の茶屋を連列し各固く火の光明を
 小絨らやと宋江に柱に相着。已に大王に報ずべしと議し居るに因りて人
 の小絨出て云るは大王は今酒小碎て休むまいぬれ先写しく碎の碇をよせ
 侍てこれと報べしとて虎皆宋江がたふ小坐と列してとらへ緊しくおり
 り。宋江暗に怒ひるは我一人の淫婦を殺しいんぞひの如き若く被る
 我が一命は知小於て殺せんとも運の拙れ不されとて自ら眼を切て只願
 嘆トるに。も三更の左側小島あり。る所に又人の小絨走り来て
 云るは大王少刻廳上小出ると命トぬふぞ。速に引寄せよとて俄小椅
 子の上に虎の皮の綱布。廳の口方小許多の燈燭を懸し。先光恰も白昼

のごとく宋江に徹し眼を穿ていける大王なり。やと驚く窺ひ居るに彼大王
 於て廳上に出ると。も糝米殿に英傑之は大王は京山東の人とて姓は燕名ハ
 順と名別號と錦毛虎と云昔日羊ると賈小商人ありしをも商賣小
 本錢と失ひ今ひ小跡を留りて盜賊の改行とせり。け時燕順已に酒の碎
 碇で廳上小出ると乃ち椅子の上小坐し。左衣の小絨小官て云るは汝は
 何れのものて捉へらるや。小絨亦答て云宋江先小後山小埋伏し。鈎索を
 地上小引人めや尋ると待る知小果しては索鈎索小鈎て倒れぬを速
 綁て大王に献トる。燕順これと笑汝が働さ我肯て恩賞をばふべし
 方。速小彼友人の大王とも同トくけ知に邀へ来れ一人の小絨命を奉るめて
 廳前を退き良久し。くして大王友人と邀へ廳上にありぬ宋江暗には大
 王と云るにたの方小坐し。る大王は身のとけみ又には海すし。とて眼の光恰も

日月のまゝに人々を誘ふ。淮のほとりて姓王名英と号し渠びのまゝに
の長矮さゆ名。人皆矮脚虎と譚名せり。系車家の二男。昔日乃中。小於て
不勞貪心せ起し。多く商人の財宝を奪取る由。後小を幸ふ。友
司小捉をえ。久し。牢中。小をて。已小斬罪。小交。乃。一。我。風。面。烈。系
系。暗。小。牢。を。越。走。ち。れ。は。凌。風。山。小。上。つ。て。燕。順。と。共。に。盜。賊。の。頭。領。と。ほ。ぬ。
扱。又。右。の。方。小。坐。し。る。大。ま。い。面。の。色。白。く。し。て。顔。長。く。身。材。短。め。く。大。ひ。之。
び。人。ハ。系。浙。西。蕪。洲。の。春。う。て。姓。ハ。鄭。名。ハ。天。壽。と。号。し。被。斬。面。色。白。く
して。人物。風。流。さ。る。小。より。人。皆。白。面。郎。君。と。呼。ば。れ。り。系。銀。袋。を。造。て。業。と
し。る。工。匠。之。け。鄭。天。壽。初。さ。時。より。武。藝。を。學。ん。で。練。熟。し。て。後。亦。業。廢。れ
吳。々。小。落。魄。の。日。は。凌。風。山。の。下。と。る。り。乃。如。に。王。英。小。出。合。將。と。交。へ。我。已。に
八。六。十。合。に。及。び。ぬ。れ。せ。務。負。を。こ。ご。り。由。名。燕。順。大。ひ。に。我。武。藝。を。傳。へ。遂。に

山。凌。小。あ。り。第。三。位。の。頭。領。と。な。ぬ。は。時。王。英。先。小。城。に。對。して。汝。等。已
に。旅。人。を。捉。へ。る。と。き。は。小。く。殺。して。肝。を。引。出。せ。我。れ。を。養。う。て。汝。一
盃。を。酌。へ。さ。と。小。城。亦。命。を。奉。り。於。て。大。ひ。身。細。の。盤。に。水。を。入。宋。江。が。前。に。盃
乃。れ。又。一。人。の。小。城。双。の。神。頭。捲。上。明。晃。を。力。を。掲。げ。已。に。宋。江。が。前。に。進。じ。如。小。被
細。の。盤。を。携。へ。出。る。小。城。又。宋。江。が。衣。の。襟。を。扯。穿。ひ。て。胸。の。上。小。只。顧。あ。り。と
澆。さ。ぬ。け。た。い。ん。ぞ。ま。れ。凡。そ。人。の。胸。の。肉。を。執。血。裏。切。り。由。名。今。は。冷。水。を。ん
て。あ。を。く。澆。さ。熱。血。を。棄。教。し。そ。後。胸。を。刺。穿。て。肝。を。引。出。し。こ。の。肝
腕。く。し。て。嘆。ひ。笑。ふ。に。固。て。は。彼。小。城。良。久。く。水。を。宋。江。が。胸。の。上。に。澆。し
ふ。宋。江。大。ひ。に。嘆。じ。て。惜。ぶ。宋。江。今。は。如。に。於。て。非。命。の。死。を。受。け。る。乃。嗚。呼
何。ぞ。運。の。拙。さ。と。悲。し。に。か。く。の。と。さ。わ。と。再。三。嘆。息。に。及。び。一。如。に。彼。燕。順。不
宋。江。と。云。ふ。二。字。を。写。て。仕。し。小。城。亦。退。け。て。云。海。へ。先。水。を。澆。く。こ。る。れ。

宋江
の
救
婦
女
難

お
の
り
の
り

新編水滸傳卷之二十一



新編水滸傳卷之二十一

十七

我今かの旅人が嘆息しつゝと嘆きつゝ小何宋江とやうん二字と称はるゝと云ふ。
 果しては言わつゝ小紙も書て云文王の夢のひしを夢て差す被今獨自
 云々の様式宋江今ひ布して非命の死と云ひつゝと歎息せり。燕順これと
 て云ふ小舟と起し乃ち近くをを夢て宋江小回て云々の様式と宋江と
 織使とるや。宋江が云我乃ち是宋江なり。燕順又同汝ハ何れの世の宋
 江と云書て我ハ是濟州鄆城縣にて押司の友と書せし宋江ハ燕順が云
 汝ハ汝ハ同婆惜と云女と殺し故に逃出する山東の及時雨宋公明と云
 人まあはばや。宋江が云汝ハ何と云てこれと知りや。我乃ちも同婆惜と殺せ
 し宋公明ハ燕順これと書て大さく驚き急に小紙が持つる刀と棄てて宋
 江が押司の索と割解し又己が身小穿るる袴衣と脱て宋江小恙さうめなや
 自ら宋江と掛け起し第一位の椅子小座と譲り仕し被友人の大王王

英鄭天壽小向て云々の様式友人椅子と下ておとせり。遂に三人此上
 倒れておとすられ。宋江慌忙て椅子と滾び下逃れれと還して云々の様式
 三位の豪傑我と殺さるゝと却て大れとゆひる。いづる渭とや。三人の大王
 跪いてお態懇小畏まる。燕順先言と書いて云々の様式眼わりと云々の様式
 仁人と織す。己に押司の号命と害せんと欲ぬ。押司自ら大名と曰はんハ
 はんぞ。宋押司とるごとく知らんや。余凡十に八年方徐州徐州府小徘徊
 てきて宋押司の大名と書及びぬ。兵恨く縁者あり。未だ号教と書せ
 ざりし知に今日天幸いと假しゆひて押司と觀せり。余一生の志願何と云
 小志んや。宋江書て云余何等の智佳あるか。懇懇の懇情小あらんや。燕
 順が云押司ハ余宋公明賢小礼し。士小下つて天下の豪傑と交りて結ひる。此
 由余佳んは海小流れて芳し。誰う敢て押司と敬はらんや。梁山泊頃日

大いに驚昌きと約て皆押司の場こそ。法人奉くこれと感歎は只る。
 押司は今何れの如く往んと何れの地より如く別りし。東江若て彼見蓋を救
 ひて後箇波の情を殺し。まづは宋を孔た公に送還し。今又清風寨
 小弛く小李家花栄を彷彿と欲する事始強佐細に決り。三人の政飲是
 と破て大いに悦び早速一套の新衣を取出して。宋江小恙せしめ。又小弛に命じ。
 牛を殺し。馬を宰し。め大いに酒宴を設け。そ夜又更のときを飲酌せり。
 翌日宋江辰の刻に起り。廳上に出別ち三政飲と共に宋侯せり。又彼武松が豪傑
 策吏も高き死別勇を誇り。され。三人の政飲齋しく大いに嘆ドて云。宋江
 うて未だ武松に遇り。そ武松とゆて共に山陣をもち。六十日に
 る。今己に化而に。一めぬ。そ。残憾をんとて再三作ご慕ひ。宋江
 清風山小又七日還留し。如く。三人の大王心中に大悦し。毎日美酒肉食

と饌へて。宋江と款待ぬ。時臘月初旬なり。山東の人制年臘日。必す
 墳小上して先祖と交り。と。如く一人の小弛。宋く告る。今大務の上に一乗の
 輜に七八人漢子跟て。二ツの大盆と荷はせ。定く墳の上に先祖と交る。
 王英の系好名の後。そ。告と。暗小悲ひ。輜の内なる。必す女。何ぞ
 是と棄きて。樂し。ま。ん。や。そ。急に。又十の小弛と。借して。山を。り。ん。し
 如く。燕順。宋江。再。これ。探り。も。王英。耳。も。吸。へ。小弛。小。下。知。し
 合鼓と。鳴。さ。壺。小。禁。と。叩。で。下。り。り。叔。宋。に。燕。順。鄭。天。壽。ホ。三。人。に。於。山。陣
 に。在。て。飲。飲。と。借。し。如。く。少。刻。一。人。の。小。弛。來。て。報。し。り。王。政。飲。人。數。を。引。て
 彼。七。八。人。の。志。趕。む。ひ。一。人。の。小。弛。來。て。報。し。り。王。政。飲。人。數。を。引。て
 如く。輜。と。破。さ。肉。と。も。り。一。人。の。女。と。銀。の。香。盒。の。も。も。そ。別。に。何。の。紋。室。も
 わ。げ。と。燕。順。問。て。女。の。今。何。れの。所。小。在。や。小。弛。が。云。王。政。飲。自。清。風。山。の。房。間

の肉小撮入るひぬ燕順これと嘆可々と大い小嘆ひる宋にいそく。王は彼
 の女を乞ふ貪る人たるもや。是大夫夫のまじりて燕順が云王英が人と有り。
 法事敢て背くともなれ共惜むく女を小奪るの病あり宋に云尺に
 ちくく我をりて友人と共小行て凍をど加へる可きんや燕順鄭天壽大
 に悦び遂に宋に延て後山の王英が房へ移り車に門を推開いて内と有り
 に王英彼女と樓へて只管嬉んとて求てあつらふ宋にホ三人が才りしてんて此に
 く女を敢ち乃ち三人と結て坐せりり。宋に彼女と有り。乃ち編素と結
 腰に孝裙と繫び面は粉脂と施さる。天竺の流を妖嬈として看す。
 微沈魚落の容貌あり宋に心中に悲ひるひ女が粧ひむして孝服と結
 乃ち定て近き親類の忌中と有り。乃ち女に問て云るひ夫人の誰が
 家の人。這等の時節かく遊りしや。彼女は面小羞るひと會て答へ

乃ち我は是清風寨の知寨が妻にて近き比老母お果ぬ由今自づの
 供おと調へて境を尋んと欲す。今比山の下と有りぬ何ぞ私小遊りす
 一とあらんや。飛く大王我が一命を救ひて宋にひ云とて大い小驚き。乃ち
 心中に悲ひるひ我また清風寨の知寨花榮が方小訪ひ行んと思ひぬ。
 此女今清風寨の知寨が妻と云る石くは花榮が妻と云るあらんづれぬ。
 我官くこれと救ると有り。刑官て云るひ夫人果して清風寨の知寨が
 妻小詐るらんば夫人の夫乃ち花榮と云人きん何由花榮知寨へ又夫人と
 共小出ず。この時節小独夫人と放てば如何と有りぬ。彼女が云我の
 是花知寨が妻と云るは宋にひ云。夫人の今已に清風寨の知寨が妻と
 告るひぬ。何れ又言とて愛するや。彼女が云大王いまは清風寨の事と知り
 何れは清風寨の小今夫人の知寨あり。乃ち一人の文友一人の友友の知寨乃ち

花榮有り。文友の知寨乃我が夫劉高と云ふ之宋江にれと夢あしく彼が夫
 已に花榮と曰僚する。我これと救はずんて死せしむる時ハ明日我法
 風寨小玉て頗る腹あり。只今王英と勧めて放しめんと欲し。乃ち王英
 小對して云らる。素一句の云と告ん小。是下肯てこれと容ひゆべきや。王英が云
 押司云わ。速に云。何ぞ遠慮しゆか。及ん宋江云。我今以夫人の云
 ちとせ。此に。宋江朝廷の友人の妻るべいんぞ下絨の案と一列小着んや。是下
 宜しく大義の二字と願速に以夫人と放ち再び回し。何ぞ王英が云。押司が
 腹背くふわ。された素久しく妻と求んと欲して。胡々これの憂ぬ。今朝廷の
 友人ホ非乃と云。素候多し。殺し是と棄ひ死するも何の妨うらん。是
 りの押司素が不申と遂し。何ぞ宋江とんとて。夢て忽ち地上小跪つて云
 らる。是下ゆ。夫人と云。何ぞ云。素後日一人の美女と擇で。是下小嫁

せり。ゆべし。只以夫人の是。我が朋友花榮が曰僚の人の妻るれば。素め何とも
 して。これと放ち回さんと。恐る。明日ふこれと際。又以時燕順鄭天壽忙しく
 宋江と杖起して云らる。押司先府と安ん。又這事。素来大事小わ。されば。
 宜しく商儀と云。押司。宋江是と夢て。是かかくのぞく。い。悔に各と教んとて。
 源く是と謝し。され燕順も。宋江に。公座と察して。王英が存念と願ず。別
 左右の小絨と。呼で云らる。汝ら。子。女。と。再。轎。小。乘。り。山。下。と。送。り。出。す。
 べしと。嚴。令。し。ぬ。れ。れ。彼。女。け。言。と。夢。て。天。小。欽。び。地。小。喜。び。再。三。宋。江
 と。相。謝。し。大。王。の。厚。恩。忘。れ。じ。と。云。られ。宋。江。以。先。系。と。見。て。再。以。彼。女
 小對し。云。夫人。必ず。我。小。謝。し。有。念。と。有。れ。我。は。山。海。の。大。王。小。わ。ら。は。り。ち
 鄆。城。縣。の。旅。客。之。彼。女。益。感。謝。し。て。遂。に。轎。の。内。小。坐。し。られ。友人。轎。夫。素。小
 轎。と。撤。て。山。下。小。馳。下。恰。も。飛。び。く。に。跑。走。り。宋。江。以。女。と。救。ひ。て。大。難。に

遇あ小根えん中ちゆうと六神ろくしんををぬ身み小知せうち之の次つぎの卷まきと見みて驚おどろくじ

一 聖 臉 五 牙
右 有 子 可 以 爲 一 兩 中 有 牙
水 滸 画 傳 卷 之 二 十 九

新編水滸画傳卷之二十九

凡 國 民 又 有 其 國 聖 聖 二 夜

大 場 繪 持

聖 心

方 場 繪 持

方 場 繪 持 文 字 五 十 二 六 藏 板

流 雲 清 之 段 今 奉 願 上 其

河 再 見 流 雲 清 之 段

